

ウィークリー・アウトルック

G7 で為替相場への言及あるか

【今週のポイント】

- ・米ドル/円に上昇圧力？
- ・G7 で為替相場への言及があるか
- ・RBNZ 会合で市場の NZ 金融政策見通しが変化するか

先週は NY ダウが史上初めて 4 万ドルを超えて越週。その他の米株価指標も週中に最高値を更新しました。FTSE100 も週中に高値を更新。日経平均は 3 月につけた高値には届かないものの、上昇基調でした。

米国の 4 月 CPI(消費者物価指数)はほぼ市場の予想通りながら、市場では FRB が 9 月にも利下げするとの観測が高まり、株価の押し上げ要因となりました。市場のムードはリスクオン(リスク選好)であり、株価は上値を追う展開となりそうです。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
5月20日		【独】祝日(聖霊降臨祭月曜日) 【カナダ】祝日(ビクトリアデー)			
5月21日	10:30	【豪】RBA議事録(5月6-7日開催分)			
	21:30	【カナダ】CPI 前年比(4月)	2.7%	2.7%	2.9%
5月22日	11:00	【NZ】RBNZ政策金利	5.50%	5.50%	5.50%
	12:00	【NZ】オアRBNZ総裁会見			
	15:00	【英】CPI 前年比(4月)	2.1%	2.1%	3.2%
	17:00	【南アフリカ】CPI 前年比(4月)	5.3%	—	5.3%
	27:00	【米】FOMC議事録(4月30日-5月1日開催分)			
5月23日		G7財務相・中央銀行総裁会議(イタリア・ストレーザ。25日まで)			
	16:30	【独】製造業PMI速報値(5月)	43.5	43.5	42.5
	17:00	【ユーロ圏】製造業PMI速報値(5月)	46.2	46.2	45.7
	20:00	【トルコ】TCMB政策金利	50.00%	50.00%	50.00%
5月24日	8:30	【日】CPI 前年比(4月)	2.4%	—	2.7%
		【日】CPI(生鮮食品を除く) 前年比(4月)	2.2%	2.2%	2.6%
		【日】CPI(生鮮食品・エネルギーを除く) 前年比(4月)	2.4%	—	2.9%

市場予想はリフィニティブ、5月20日11:00現在。発表日時は日本時間。

経済指標では、20日に中国5月最優遇貸出金利、21日に日銀「金融政策の多角的レビュー」に関する第2回ワークショップ、22日に日本3月機械受注、日本4月貿易収支、米国4月中古住宅販売件数、FOMC(4月30日～5月1日開催分)議事録、エヌビディア決算、23日に米国5月製造業PMI、米国4月新築住宅販売件数、G7財務相・中央銀行総裁会合(～25日)、24日に日本4月全国消費者物価指数、米国4月耐久財受注などが予定されています。

日米の金融政策見通しに大きな変化はないかもしれませんが、市場が経済指標/イベントにどう反応するか、要注目でしょう。＜西田＞

RBNZ(NZ中銀)の政策会合が22日に開かれます。豪ドル/NZドルやNZドル/円、NZドル/米ドルについては、会合の結果が材料になりそうです。

カナダの4月CPI(消費者物価指数)が21日に、南アフリカの4月CPIが22日に、メキシコの5月前半CPIが23日に発表されます。CPIの結果を受け、市場のBOC(カナダ中銀)やSARB(南アフリカ中銀)、BOM(メキシコ中銀)の金融政策見通しが変化するかどうか注目です。

NYダウが17日に終値ベースで史上初めて4万ドルを超えました。米国など主要国の株価が堅調に推移れば、リスクオン(リスク選好)の動きが強まるとともに、円が全般的に軟調に推移して、豪ドル/円などのクロス円は上値を試す展開になる可能性があります。

TCMB(トルコ中銀)が23日に政策会合を開きます。TCMBは3月の会合で5.00%の利上げを実施した後、前回4月の会合では政策金利を50.00%に据え置きました。4月会合時の声明では、「インフレ見通しが大幅に悪化すれば行動する」と表明されました。

トルコの4月CPIは前年比69.80%と、上昇率は68.50%から加速したものの、カラハンTCMB総裁などの発言をみると、23日の会合で政策金利は据え置かれそうです。カラハン総裁は14日に「インフレ率(CPI上昇率)は5月に約75%でピークに達し、今年後半には大幅に鈍化する」と述べ、シムシェキ・トルコ財務相は15日に「(TCMBの)金融政策はインフレ期待を安定させるのに十分引き締められている」との認識を示しました。市場ではTCMBは23日の会合で政策金利を据え置くとの見方が大勢です。その通りの結果になれば、トルコリラに大きな反応はみられないかもしれません。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: ＜米ドル/円 予想レンジ:152.000円～158.000円＞

17日時点のOIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場のメインシナリオ(確率5割超)は、「FRBは9月と12月に0.25%ずつの利下げ」です。ただし、9月までの利下げ確率は約8割、12月までの追加利下げの確率は7割程度です。したがって、今後の材料次第では利下げ開始の観測が11月に後ズレしたり、年内の追加利下げがメインシナリオから外れたりする可能性があります。その場合は、米ドルにプラスに作用しそうです。

日本の長期金利(10年物国債利回り)は、17日に0.95%まで上昇。日米長期金利差が縮小して、米ドル/円の下落を示唆しています。長期金利差が一段と縮小するのかどうか、要注目でしょう。＜西田＞

今週の注目通貨ペア②:＜豪ドル/NZドル 予想レンジ:1.08000NZドル～1.10500NZドル＞

22日にRBNZ(NZ中銀)の政策会合が開かれます。その結果が豪ドル/NZドルの行方に大きく影響を与える可能性があります。

RBNZは4月の会合まで6回連続で政策金利を5.50%に据え置きました。政策金利は今回も据え置かれると考えられます。

RBNZの声明や政策金利見通し、オアRBNZ総裁の会見も材料になりそうです。RBNZは前回4月の会合時の声明で「政策金利を長期間にわたって(景気)抑制的な水準に維持することで、年内にCPI(消費者物価指数)上昇率は1～3%の目標に戻ると確信している」と表明。また、2月の金融政策報告では「政策金利は5.60%でピークを迎え、25年前半に5.50%(現行水準)を下回る」との見通しを示しました。今回の会合でRBNZの金融政策スタンスや政策金利見通しに大きな変化があるのかどうか注目です。

市場では、RBNZは早ければ8月の会合で利下げを行うとの観測があります。声明や政策金利見通し、オア総裁の会見が市場の利下げ観測を後退させる内容になれば、NZドルが堅調に推移して、豪ドル/NZドルには下押し圧力が加わりそうです。＜八代＞

今週の注目通貨ペア③:＜米ドル/カナダドル 予想レンジ:1.35000カナダドル～1.38000カナダドル＞

カナダの4月CPI(消費者物価指数)が21日に発表されます。物価動向はBOC(カナダ中銀)の金融政策に大きな影響を与えるため要注目です。

BOCは前回4月10日の政策会合で政策金利を5.00%に据え置く一方で、マックレム総裁は会合後の会見で「6月に利下げする可能性もある」と述べました。市場ではBOCは次回6月5日の会合で利下げを行うとの観測もあります。市場の金融政策見通しを反映するOIS(翌日物金利スワップ)によると、市場が織り込むBOCの6月会合の確率は、据え置きが約6割・利下げが約4割です。カナダの4月CPIが弱い結果になれば、BOCの利下げ観測が強まるとともに、カナダドル安材料になりそうです。

米ドル/カナダドルについては、市場のFRBの金融政策見通しがどう変化するかにも注目です。22日公表の米FOMC議事録などでFRBの利下げ観測が後退する場合、米ドル/カナダドルは上値を試す展開になりそうです。＜八代＞

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。また、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
